



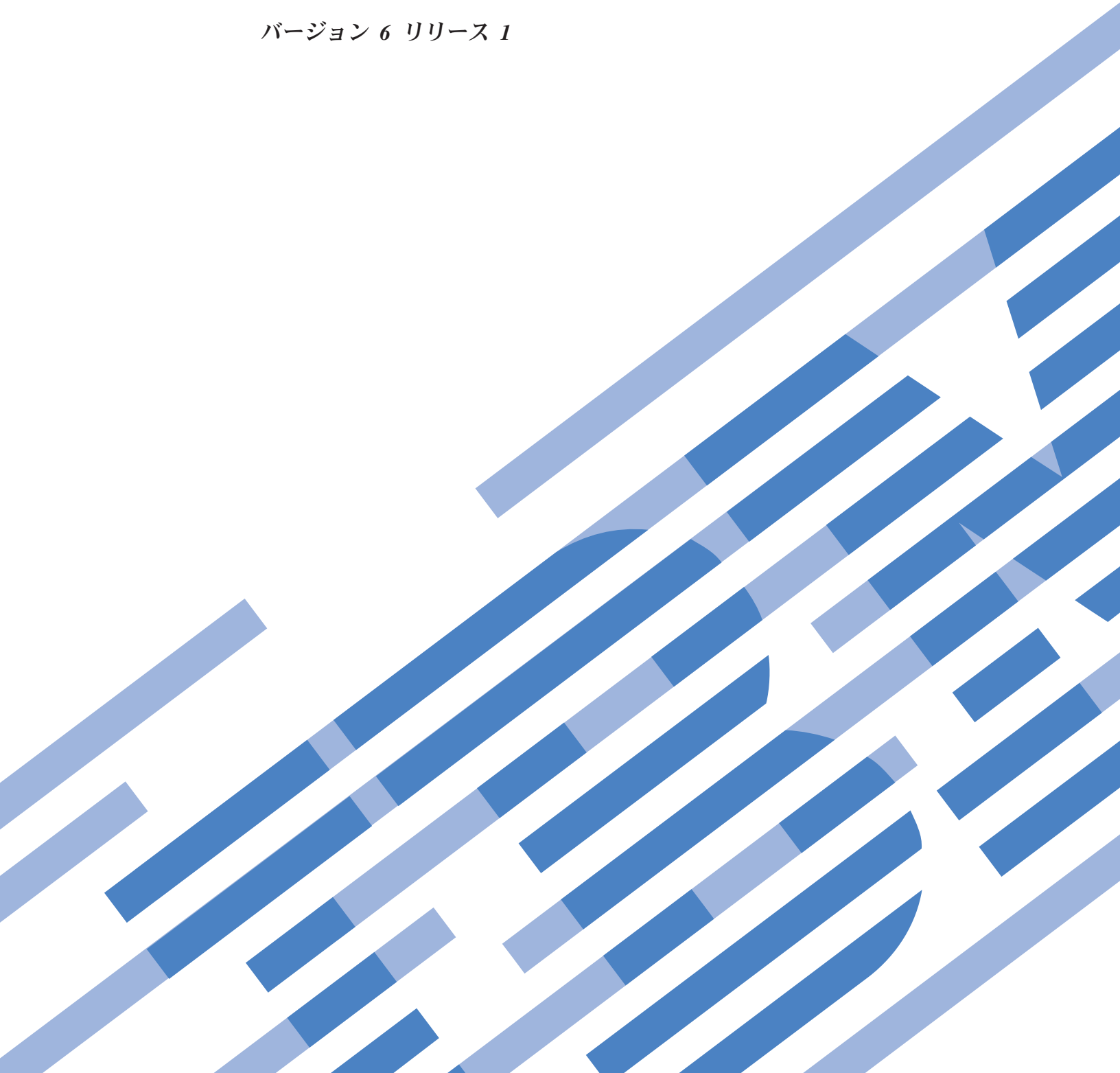
System i

プログラミング

i5/OS コマンド

WRKSFWAGR (ソフトウェア契約処理) ~

バージョン 6 リリース 1





System i

プログラミング

i5/OS コマンド

WRKSFWAGR (ソフトウェア契約処理) ~

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、83 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (プロダクト番号 5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りが無い限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションにも適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典:	System i Programming i5/OS commands Starting with WRKSFWAGR (Work with Software Agreements) Version 6 Release 1 Network Installation Management Guide and Reference
発 行:	日本アイ・ビー・エム株式会社
担 当:	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2008. All rights reserved.

目次

ソフトウェア契約の処理 (WRKSFWAGR)	1	カテゴリー (CATEGORY)	24
パラメーター	1	報告状況 (STATUS)	24
例	1	出力 (OUTPUT)	25
エラー・メッセージ	1	情報収集 (COLSRVIN)	25
		情報の送信 (SNDSRVIN)	25
		保守情報 (SRVIN)	25
		問題識別コード (PRBID)	26
		問題の情報 (SRVINPRB)	26
		期間 (PERIOD)	26
		起点システム (ORIGIN)	27
		PMR番号 (SRVID)	28
		サービス・エージェントのみ (SRVAGTONLY)	28
		サブタイプ (SUBTYPE)	28
		装置 (DEVICE)	29
		例	29
		エラー・メッセージ	29
共用記憶域プールの処理 (WRKSHRPOOL)	3	サービス・プログラムの処理	
パラメーター	3	(WRKSRVPGM)	31
出力 (OUTPUT)	3	パラメーター	31
例	3	サービス・プログラム (SRVPGM)	31
エラー・メッセージ	3	例	32
		エラー・メッセージ	33
		サービス・プロバイダーの処理	
制御範囲処理 (WRKSOC)	5	(WRKSRVPVD)	35
パラメーター	5	パラメーター	35
例	5	例	35
エラー・メッセージ	5	エラー・メッセージ	35
		サービス・テーブル項目の処理	
スペル援助辞書の処理 (WRKSPADCT)	7	(WRKSRVTBLE)	37
パラメーター	7	パラメーター	37
スペル援助辞書 (SPADCT)	7	サービス (SERVICE)	37
例	8	出力 (OUTPUT)	37
エラー・メッセージ	9	例	38
		エラー・メッセージ	38
		システム活動の処理 (WRKSYSACT)	39
スプール・ファイル処理 (WRKSPLF)	11	パラメーター	39
パラメーター	11	出力 (OUTPUT)	39
ファイル選択 (SELECT)	12	間隔の長さ (INTERVAL)	39
ジョブ名 (JOB)	13	順序 (SEQ)	40
時間枠 (PERIOD)	14	情報のタイプ (INFTYPE)	40
ASP装置 (ASPDEV)	15	間隔の数 (NBRITV)	40
出力 (OUTPUT)	15	メンバー (MBR)	41
画面様式 (DSPFMT)	16	ライブラリー (LIB)	41
援助レベル (ASTLVL)	16	例	41
例	17	エラー・メッセージ	41
エラー・メッセージ	17		
スプール・ファイル属性処理			
(WRKSPLFA)	19		
パラメーター	19		
スプール・ファイル (FILE)	19		
ジョブ名 (JOB)	19		
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	20		
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	20		
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	21		
出力 (OUTPUT)	21		
例	22		
エラー・メッセージ	22		
サービス・エージェントの処理			
(WRKSRVAGT)	23		
パラメーター	23		
タイプ (TYPE)	23		

システム状況処理 (WRKSYSSTS)	43
パラメーター	43
出力 (OUTPUT)	43
状況統計リセット (RESET)	43
援助レベル (ASTLVL)	44
例	44
エラー・メッセージ	44
システム値の処理 (WRKSYSVAL)	45
パラメーター	46
システム値 (SYSVAL)	47
出力 (OUTPUT)	47
例	47
エラー・メッセージ	48
テープ・カートリッジの処理 (WRKTAPCTG)	49
パラメーター	49
ライブラリー装置 (DEV)	49
カートリッジID (CTG)	49
カテゴリー (CGY)	50
例	51
エラー・メッセージ	51
テーブルの処理 (WRKTBL)	53
パラメーター	53
テーブル (TBL)	53
例	54
エラー・メッセージ	54
POINT-TO-POINT TCP/IPの処理 (WRKTCPPTP)	57
パラメーター	57
プロファイルの構成 (CFGPRF)	58
操作モード (OPRMODE)	58
例	58
エラー・メッセージ	59
TCP/IPネットワーク状況の処理 (WRKTCPSTS)	61
パラメーター	61
オプション (OPTION)	61
例	62
エラー・メッセージ	62
TIE処理 (WRKTIE)	63
パラメーター	63
ユーザー識別コード (SPTUSRID)	63
パスワード (SPTPWD)	63
アカウント (ACCOUNT)	63
例	64
エラー・メッセージ	64
時間帯記述処理 (WRKTIMZON)	65
パラメーター	65

時間帯記述 (TIMZON)	65
例	65
エラー・メッセージ	66
トレースの処理 (WRKTRC)	67
パラメーター	67
トレース (TRC)	67
例	68
エラー・メッセージ	68
ユーザー・ジョブの処理 (WRKUSRJOB)	69
パラメーター	69
表示するジョブのユーザー (USER)	70
ユーザー・ジョブの状況 (STATUS)	70
出力 (OUTPUT)	70
ジョブ・タイプ (JOBTYPE)	70
援助レベル (ASTLVL)	71
例	71
エラー・メッセージ	72
ユーザー・プロファイル処理 (WRKUSRPRF)	73
パラメーター	73
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	73
援助レベル (ASTLVL)	73
例	74
エラー・メッセージ	74
ユーザー・テーブル処理 (WRKUSRTBL)	75
パラメーター	75
ユーザー・テーブル (USRTBL)	75
テキスト'記述' (TEXT)	75
例	76
エラー・メッセージ	76
監視の処理 (WRKWCH)	77
パラメーター	77
監視 (WCH)	77
例	78
エラー・メッセージ	78
書き出しプログラム処理 (WRKWTR)	79
パラメーター	79
書き出しプログラム (WTR)	79
出力待ち行列 (OUTQ)	79
出力 (OUTPUT)	80
画面様式 (DSPFMT)	80
援助レベル (ASTLVL)	81
例	81
エラー・メッセージ	81
付録. 特記事項	83
プログラミング・インターフェース情報	84
商標	85
使用条件	86
コードに関するライセンス情報および特記事項	86

ソフトウェア契約の処理 (WRKSFWAGR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ソフトウェア契約処理(WRKSFWAGR)コマンドにより、ユーザーは導入されているライセンス・プログラムのソフトウェア契約文書を表示または印刷することができます。

このコマンドにはパラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

WRKSFWAGR

このコマンドは、現在システムに導入され、オンライン・ソフトウェア契約のあるライセンス・プログラムのリストおよびその表示または印刷のオプションを示す「ソフトウェア契約処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

共用記憶域プールの処理 (WRKSHRPOOL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

共用記憶域プールの処理 (WRKSHRPOOL)コマンドによって、共用記憶域プールを表示、印刷、または変更することができます。マシン・プールおよび基本プール・システム値も表示されます。画面上の値に重ねて入力することによってプール・サイズおよび活動レベルを変更することができます。さらに、サイズおよび活動レベルをブランクにすることによって、共用プールを*NOSTGに変更することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTPUT	出力	*、*PRINT	オプション、定位置 1

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

例

WRKSHRPOOL OUTPUT(*)

このコマンドは、共用記憶域プール情報を示す「共用プールの処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

上

制御範囲処理 (WRKSOC)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

制御範囲処理(WRKSOC)コマンドは、ユーザーが明示的に定義する制御点名の現在の状況を削除、追加、または表示します。

このコマンドにはパラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

WRKSOC

このコマンドは、「制御の範囲の処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

なし

上

スペル援助辞書の処理 (WRKSPADCT)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スペル援助辞書処理(WRKSPADCT)コマンドによって、使用可能なスペル援助辞書のリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているスペル援助辞書だけが、画面に表示されます。
- スペル援助辞書に対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるスペル援助辞書に対する適切な権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SPADCT	スペル援助辞書	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: スペル援助辞書	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

上

スペル援助辞書 (SPADCT)

表示するスペル援助ディクショナリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: スペル援助辞書

***ALL** すべてのスペル援助ディクショナリーが表示されます。

総称名 表示するスペル援助辞書の総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのスペル援助辞書が表示されます。

名前 表示するスペル援助辞書の名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRISJS   QUSRVRxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
WRKSPADCT  SPADCT(*ALL)
```

このコマンドは、ライブラリー・リスト中のスペル援助ディクショナリーのすべてのリストが表示されている「スペル援助ディクショナリーの処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

上

スプール・ファイル処理 (WRKSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル処理(WRKSPLF)コマンドは、システム上のすべてのスプール・ファイルのリストまたはその中から選択したリストを表示します。表示されている任意の項目またはすべての項目を変更、保留、削除、表示、または解放するよう、選択することができます。

パフォーマンスに関する考慮事項: スプール・ファイルのリストを表示するために必要な時間の長さは、使用される選択基準およびリスト中のスプール・ファイルの数によって異なります。多数のスプール・ファイルがあるシステムでは、システムのスプール・ファイルの選択したリストを表示することが必要な場合があります。WRKSPLFに関する詳細なパフォーマンス情報については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>) の「SPOOL PERFORMANCE CONSIDERATIONS EXPERIENCE REPORT」を参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SELECT	ファイル選択	要素リスト	オプション、定位置 1
	要素 1: ユーザー	総称名, 名前, *CURRENT, *ALL	
	要素 2: 印刷装置	名前, *ALL, *OUTQ	
	要素 3: 用紙タイプ	文字値, *ALL, *STD	
	要素 4: ユーザー・データ	文字値, *ALL	
	要素 5: ASP	1-32, *ALL, *ASPDEV	
JOB	スプール・ファイル	総称名, 名前, *ALL	オプション
	ジョブ名	単一値: *ALL その他の値: 修飾ジョブ名	
	修飾子 1: ジョブ名	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前, *ALL	
PERIOD	時間枠	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日付	日付, *BEGIN	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
要素 2: 終了日付	日付, *END		
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
DSPFMT	画面様式	*INLENV, *S36FMT, *NORMAL	オプション、定位置 2
ASTLVL	援助レベル	*PRV, *USRPRF, *BASIC, *INTERMED	オプション

上

ファイル選択 (SELECT)

表示するために選択するファイルのグループを指定します。次の定位置値を使用して、ファイルを選択することができます。すなわち、ファイルを作成したユーザー、ファイルが待機している装置、指定された用紙タイプ、ファイルと関連したユーザー・データ・タグ、ファイルが入っている補助記憶域プール、またはスプール・ファイル名です。各値と一致するファイルだけが選択されます。

要素1: ユーザー

*CURRENT

このコマンドを実行中のユーザーによって作成されたファイルだけが選択されます。

*ALL すべてのユーザーによって作成されたファイルが選択されます。

総称名 選択された基準を満たすすべてのユーザーによって作成されたファイル。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。名前にアスタリスクが指定されていない場合には、システムはその名前を完全なユーザー名であるとみなします。

名前 ユーザー名を指定してください。そのユーザー名によって作成されたファイルだけを選択します。

要素2: 印刷装置

*ALL 装置作成またはユーザー作成の出力待ち行列上にあるファイルが選択されます。

*OUTQ

ユーザー作成の出力待ち行列のすべてのファイルが選択されます。ユーザー作成の出力待ち行列とは、装置によって自動的に作成されない出力待ち行列です。ユーザー作成の出力待ち行列は通常は装置と同じ名前にはなりません。同じ名前の場合には、それはライブラリーQUSRSYS内にはありません。

名前 装置名を指定してください。その装置の装置作成の出力待ち行列上のファイルだけが選択されます。装置作成の出力待ち行列は装置と同じ名前を持ち、QUSRSYSライブラリーにあります。この出力待ち行列がすでに存在していなければ、装置の作成時にシステムによって自動的に作成されます。装置作成の出力待ち行列を削除することはできません。

要素3: 用紙タイプ

*ALL すべての用紙タイプのファイルが選択されます。

*STD 標準用紙タイプを指定するファイルだけが選択されます。

文字値 ファイルを選択する用紙タイプを指定してください。

要素4: ユーザー・データ

*ALL ユーザー・データ・タグが指定されているファイルがどれも選択されます。

総称ユーザー・データ

基準と一致するユーザー・データ・タグを持つファイルが選択されます。総称ユーザー・データ・タグは1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。ストリングの中間にアスタリスクを組み込んだ場合（例えば、AB*C*など）は、それが比較ストリングの一部として取り扱われます。

ユーザー・データ

ファイルを選択するためのユーザー・データ・タグを指定してください。

要素5: ASP

***ALL** 補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定された通りにすべてのファイルが選択されます。

***ASPDEV**

補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定されたファイルが選択されます。

1から32

選択するファイルの補助記憶域プール(ASP)を指定してください。

要素6: スプール・ファイル

***ALL** 任意の名前を持つファイルが選択されます。

総称名 総称名と一致する名前を持つすべてのスプール・ファイルが選択されます。総称名は1つ以上の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（例えば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。名前にアスタリスクが指定されていない場合には、システムはその名前を完全なスプール・ファイル名であるとみなします。

名前 選択するスプール・ファイルの名前を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

選択するスプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

注: このパラメーターを使用できるのは、SELECTパラメーターのユーザー名要素に*ALLを指定した場合だけです。

単一値

***ALL** すべてのジョブが作成したスプール・ファイルが組み込まれます。

修飾子1: ジョブの選択

総称名 指定された総称名を持つジョブが作成したスプール・ファイルが組み込まれます。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング（例えば、ABC*）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ジョブ名は、総称接頭部で始まるジョブ名を持つすべてのジョブを指定します。

名前 指定された名前を持つジョブが作成したスプール・ファイルが組み込まれます。

修飾子2: ユーザー

***ALL** 指定されたジョブ名と一致するジョブが作成したスプール・ファイルが組み込まれます。

総称名 指定された総称ユーザー名を持つジョブが作成したスプール・ファイルが組み込まれます。

名前 指定されたユーザー名を持つジョブが作成したスプール・ファイルが組み込まれます。

修飾子3: 番号

***ALL** 指定されたジョブ名およびユーザー名と一致するジョブが作成したすべてのスプール・ファイルが組み込まれます。

000001から999999

ジョブ名およびユーザー名をさらに修飾するジョブ番号を指定してください。

時間枠 (PERIOD)

表示されるスプール・ファイルを選択するための時間の期間を指定します。これは、スプール・ファイルの作成日および時刻です。このパラメーターには、それぞれが2つの要素を持つ2つの要素リストが含まれています。

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

次の1つを使用して、その時またはそれ以後にスプール・ファイルが作成された開始時刻を指定します。指定した時刻と日付より前に作成されたスプール・ファイルは表示されません。

*AVAIL

指定した開始日以後に作成されたすべてのスプール・ファイルが表示されます。

時刻 指定した開始日の開始時刻を指定します。この時刻は24時間形式で指定され、時刻区切り記号付きまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(**HHMM**または**HHMMSS**)を指定してください。ここで、**HH** =時、**MM** =分、**SS** =秒です。時、分、および秒はそれぞれ正確に2桁でなければなりません。必要な場合には、先行ゼロを使用してください。**HH**に有効な値の範囲は00から23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00から59です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブに指定された時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5文字または8文字のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

次の1つを使用して、その時またはそれ以後にスプール・ファイルが作成された開始日を指定します。指定した日付より前に作成されたスプール・ファイルは表示されません。

*BEGIN

他の選択基準を満たすすべてのスプール・ファイルが表示されます。開始日として*BEGINを指定した場合には、*AVAIL以外の開始時刻値は無視されます。

日付 開始日を指定してください。日付は、ジョブ値DATFMTによって指定された形式で入力する必要があります。区切り記号を使用する場合には、ジョブ値DATSEPによって指定された日付区切り記号でなければなりません。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

次の1つを使用して、それ以前にスプール・ファイルが作成された終了時刻を指定します。

***AVAIL**

指定した終了日以前に作成されたすべてのスプール・ファイルが表示されます。

時刻 それ以前にスプール・ファイルが作成された指定の終了日の終了時刻を指定してください。

要素2: 終了日付

次の1つを使用して、その時またはそれ以前にスプール・ファイルが作成された終了日を指定します。

***END** スプール・ファイルの最後に作成された日が終了日として使用されます。 *ENDを指定した場合には、終了時刻の*AVAIL以外の値は無視されます。

日付 終了日を指定してください。日付は、ジョブ値DATFMTによって指定された形式で入力する必要があります。区切り記号を使用する場合には、ジョブ値DATSEPによって指定された日付区切り記号でなければなりません。

上

ASP装置 (ASPDEV)

選択されるスプール・ファイルが入っている補助記憶域プール装置を指定します。このパラメーターが有効なのは、選択パラメーターのASP番号(ASP)要素が*ALLまたは*ASPDEVである場合だけです。

*
- 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっているASPで見つかったファイルが選択されます。これには、システムASP (ASP 1),すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2から32)が含まれ、また、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ内の1次および2次ASPが含まれます。

***SYSBAS**

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済みユーザーASP (ASP 2から32)で見つかったファイルが選択されます。

***CURASGRP**

スレッドのASPグループの1次および2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

名前 補助記憶域プール装置記述の名前を指定してください。指定された1次または2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドのASPグループ内にある1次または2次ASPのみを指定することができます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

上

出力 (OUTPUT)

出力を表示装置に表示するかまたは印刷するかを指定します。出力が表示される場合には、出力はこのコマンドを入力したワークステーションに送られます。

*
出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

***PRINT**

出力は印刷されます。

注: S/36環境を使用している場合には、***PRINT**を指定することはできません。 コマンドを対話式に実行した場合には、出力は表示されますが、印刷されません。 コマンドをバッチで実行した場合には、エラー・メッセージが送られ、出力は生成されません。

上

画面様式 (DSPFMT)

このコマンドの実行の結果の表示で使用する様式および用語を指定します。

注: システム/36画面様式を使用する場合には、出力 (**OUTPUT**)パラメーターは無視されて、データはユーザーの表示装置に表示されます。

***INLENV**

使用される様式および用語は、ユーザー・プロファイルで指定されたSPCENV（特殊環境）値によって決定されます。 SPCENV値が*S36の場合には、システム/36の用語が使用されます。他のすべての値では、このシステムの用語が使用されることになります。

***S36FMT**

システム/36の用語を使用して情報を表示します。

注: *S36FMTの表示様式を使用している場合には、1次または2次補助記憶域プールに存在しているスプール・ファイルは表示されません。

***NORMAL**

情報を表示するためにこのシステムの用語が使用されます。

上

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***PRV** 前に使用したユーザー・インターフェースが表示されます。

***USRPRF**

ユーザー・プロファイルの**援助レベル (ASTLVL)**パラメーターに指定されたユーザー・インターフェースが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

注: 選択パラメーターおよび操作援助機能ユーザー・インターフェースに指定されたASP番号(1から32)が使用された場合には、システムASP (ASP 1)およびすべての基本ユーザーASP (ASP 2から32)からのスプール・ファイルがリストされます。 操作援助機能ユーザー・インターフェースを使用している場合には、1次または2次補助記憶域プールに存在しているスプール・ファイルは表示されません。

***INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

例

例1:すべてのスプール・ファイルの処理

```
WRKSPLF  SELECT(*ALL *ALL *ALL *ALL *ALL *ALL) DSPFMT(*NORMAL)
```

このコマンドは、システム上のすべてのスプール・ファイルのリストを示す「スプール・ファイルの処理」パネルを表示します。使用される用語は、ユーザーのプロファイルのSPCENVパラメーターの値によって決定されます。省略時の値では、情報は表示装置に送られます。

例2:選択したスプール・ファイルの処理

```
WRKSPLF  SELECT(CASMITH *ALL *ALL MEMO *ALL *ALL)
```

このコマンドによって、CASMITHという名前のユーザーのための、スプール・ファイルのユーザー・データに「MEMO」を指定した、システム上のすべてのスプール・ファイルを処理することができます。

例3:ユーザー・データによるスプール・ファイルの処理

```
WRKSPLF  SELECT(*ALL *ALL *ALL '*SAV*' *ALL *ALL)
```

このコマンドによって、スプール・ファイルのユーザー・データで最初の4文字に'*SAV'が指定されたシステム上のすべてのスプール・ファイルを処理することができます。

例4:日付によるスプール・ファイルの処理

```
WRKSPLF  SELECT(*ALL)  
          PERIOD(('11:30:00' '01/12/2005') ('20:00:00' '01/12/2005'))
```

このコマンドによって、2005年1月12日の11:30 AMから8:00 PMの間の作成日時をもつシステム上のすべてのスプール・ファイルを処理することができます。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1E94

ユーザー名&1は存在していない。

CPF1E95

印刷装置&1が見つからなかった。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF337E

ASP装置&1がスレッドの現行ASPグループにありません。

CPF337F

ASP番号&2ではASP装置&1は使用できません。

CPF33D0

印刷装置&1が存在していない。

CPF33D1

ユーザー&1が存在していない。

CPF3302

ファイル&2への印刷ファイル&1の一時変更は正しくない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF33FD

ASP装置&1は使用できません。

CPF3420

バッチにシステム/36画面様式を使用することはできない。

CPF7D41

発注援助要求のロギング時にエラーが起きました。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

CPF8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

上

スプール・ファイル属性処理 (WRKSPLFA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル属性処理(WRKSPLFA)コマンドは、指定されたスプール・ファイルの現在の属性を表示します。属性は、ファイルがオープンされた後そのファイル項目がまだ出力待ち行列上にある間表示することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
FILE	スプール・ファイル	名前	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

スプール・ファイル (FILE)

属性を表示したいスプール・ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 属性を表示するスプール・ファイルのファイル名を指定してください。

上

ジョブ名 (JOB)

スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定します。

単一値

* このコマンドを出したジョブが、そのスプール・ファイルを作成したジョブです。

修飾子1: ジョブ名

名前 スプール・ファイルを作成したジョブの名前を指定してください。別のジョブ修飾子を指定しない場合には、そのジョブの単純名を見つけるために、システムに現在あるすべてのジョブが検索されます。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000から999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

上

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

このジョブで属性を表示するスプール・ファイルの固有の番号を指定します。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST

指定されたファイル名で最高の番号が付いているスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

1から999999

属性を表示する指定されたファイル名のスプール・ファイルの番号を指定してください。

上

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

*CURRENT

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

名前 スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

上

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

単一値

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

要素1: 作成日

日付 スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

要素2: 作成時刻

*ONLY

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

*LAST

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

時刻 スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は表示されるか（対話式ジョブによって要求された場合）、あるいは印刷されます（バッチ・ジョブによって要求された場合）。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

上

例

WRKSPLFA FILE(QPRINT) OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、スプール・ファイルQPRINTの現行属性が入っているファイルを印刷し、そのスプール・ファイルを印刷のためにジョブの出力待ち行列に送ります。このコマンドを入力したジョブでは、QPRINTという名前の出力ファイルは1つだけ作成されていなければなりません。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF3302

ファイル&2への印刷ファイル&1の一時変更は正しくない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3336

ジョブ&5/&4/&3はすでにシステムにはない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3が見つからない。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF7D41

発注援助要求のロギング時にエラーが起きました。

CPF7D42

データベース操作の実行中にエラーが起こった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

上

サービス・エージェントの処理 (WRKSRVAGT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・エージェントの処理(WRKSRVAGT)コマンドによって、ユーザーは、サービス・エージェントの幾つかの機能域を処理できます。この区域は、**タイプ(TYPE)**パラメーターで指定します。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TYPE	タイプ	*SRVIN, *EVENT, *PRBLOGE, *THRESHOLD	必須, 定位置 1
CATEGORY	カテゴリー	*ALL, *DASD, *TAPE, *PROC	オプション
STATUS	報告状況	*ALL, *PENDING	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT	オプション
COLSRVIN	情報収集	*YES, *NO	オプション
SNDSRVIN	情報の送信	*YES, *NO	オプション
SRVIN	保守情報	値 (最大 9 回の繰り返し); 文字値, *ALL	オプション
PRBID	問題識別コード	文字値, *ALL	オプション
SRVINPRB	問題の情報	*ALL, *PRIMARY, *SECONDARY	オプション
PERIOD	期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日付	日付, *BEGIN, *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
ORIGIN	起点システム	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワークID	通信名, *ALL, *LOCAL	
	要素 2: 制御点名	通信名, *ALL, *LOCAL	
SRVID	PMR番号	文字値, *ALL	オプション
SRVAGTONLY	サービス・エージェントのみ	*NO, *YES	オプション
SUBTYPE	サブタイプ	*SYSREFCDE, *TABLE	オプション
DEVICE	装置	文字値	オプション

上

タイプ (TYPE)

処理したいサービス・エージェントの区域を指定します。

これは必須パラメーターです。

*EVENT

サービス・エージェントによって実行されたプロダクト活動ログ分析の結果が表示されます。PAL分析時に、サービス・エージェントは装置、システム参照コード、および日付でプロダクト活動ログ・レコードをグループ化します。TYPE(*EVENT)を指定すると、プロダクト活動ログ・レコードのこのような各グループに関する情報、グループを構成するレコード数、および各レコードに対してサービス・エージェントが行うアクションが表示されます。

*SRVINP

サービス情報を収集してIBMへ送信する処理が即時に開始されます。

*PRBLOGE

カスタマイズされたフロントエンドをWRKPRBコマンドに提供します。これは、サービス担当者の問題判別を容易にするように、WRKPRBのサービス関連パラメーターのみを公開します。

問題処理(WRKPRB)コマンドは、「問題処理」画面で機能します。このコマンドを使用して、システムまたは論理区画で検出されたか、あるいはユーザーが検出した問題を処理することができます。

*THRESHOLD

サービス・エージェントしきい値テーブル内のシステム参照コードを処理するのか、テーブル全体を処理するのかを指定します。

上

カテゴリ (CATEGORY)

サービス・エージェントのプロダクト活動ログ分析情報が表示される装置のカテゴリを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*EVENT)を指定した場合だけです。

***ALL** プロダクト活動ログ分析情報は、システムまたは論理区画上のすべての装置について表示されません。

*DASD

プロダクト活動ログ分析情報は、直接アクセス記憶装置のみについて表示されます。

*TAPE

プロダクト活動ログ分析情報は、すべての磁気装置、光ディスク装置、およびディスク装置について表示されます。

*PROC

プロダクト活動ログ分析情報は、記憶装置を除くすべての装置について表示されます。

上

報告状況 (STATUS)

表示されるサービス・エージェント・プロダクト活動ログ分析情報が現在活動状態の情報のみに限定されるかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*EVENT)を指定した場合だけです。

***ALL** 適用されるすべてのサービス・エージェントのプロダクト活動ログ分析情報が表示されます。

*PENDING

サービス・エージェントが、新しいシステムまたは論理区画の問題をユーザーおよびサービス提供元に通知する可能性があるサービス・エージェントのプロダクト活動ログ分析グループのみが表示されます。このようなグループは、そのグループに属する追加のプロダクト活動ログ・レコードが見つかった場合に、サービス・エージェントが問題の報告に使用するプロダクト活動ログ情報を表します。

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力がどこに送られるかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*EVENT)を指定した場合だけです。

*
_ 出力は、対話式ジョブの場合には表示され、非対話式ジョブの場合にはジョブのプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

上

情報収集 (COLSRVINF)

システムまたは論理区画情報を収集するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SRVINF)を指定した場合だけです。

*YES システムまたは論理区画のサービス情報が収集されます。

*NO システムまたは論理区画のサービス情報は収集されません。

上

情報の送信 (SNDSRVINF)

収集された使用可能なサービス情報をIBMへ送信するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SRVINF)を指定した場合だけです。

*YES 収集された使用可能なサービス情報がIBMへ送信されます。

*NO 収集された使用可能なサービス情報はIBMへ送信されません。

上

保守情報 (SRVINF)

処理するサービス情報のタイプを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*SRVINF)を指定した場合だけです。

*ALL すべてのタイプのサービス情報が処理されます。

*PRBID

問題ログIDのサービス情報。

注: *PRBIDは、他に追加で指定された値がない場合にのみ有効です。

上

問題識別コード (PRBID)

選択される問題の問題IDを指定します。異なるシステムまたは論理区画を起点とする問題が同じIDを持つことがあります。このパラメーターは、特定のシステムまたは論理区画から発生する単一の問題を選択するために、**起点システム(ORIGIN)**パラメーターと共に使用できます。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRBLOGE)を指定した場合だけです。

***ALL** すべての問題IDが選択されます。

文字値 選択される問題の問題IDを指定してください。

上

問題の情報 (SRVINFPRB)

問題ID (PRBID)パラメーターで指定された問題について送信されるサービス情報のタイプを指定します。

注: SRVINFPRB(*PRBID)が指定された場合には、これは必須パラメーターです。

***ALL** 指定した問題についてすべてのサービス情報が送信されます。

***PRIMARY**

1次サービス情報のみが送信されます。

***SECONDARY**

2次サービス情報のみが送信されます。

上

期間 (PERIOD)

問題ログ項目の表示対象の時間間隔を指定します。これは、問題ログ項目がログに入れられた時刻です。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRBLOGE)を指定した場合だけです。

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

***AVAIL**

指定した開始日に使用可能なログに記録されたデータが表示されます。

時刻

表示するログに記録されたデータを示す指定した開始日の開始時刻をジョブ時刻形式で指定してください。

要素2: 開始日付

***BEGIN**

ログの始めからログに記録されたデータが表示されます。

注: *BEGINを指定した場合には、開始時刻の*AVAIL以外の時刻値は無視されます。

***CURRENT**

現在日の指定された開始時刻から終了時刻（指定された場合）までにログに記録されたデータが表示されます。

日付 ログに記録されたデータが表示される開始日をジョブ日付形式で指定してください。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

***AVAIL**

指定された終了日に使用可能なログに記録されたデータが表示されます。

時刻 ログに記録されたデータが表示される指定した終了日の終了時刻をジョブ時刻形式で指定してください。

要素2: 終了日付

***END** データがログに記録された最終日がログに記録されたデータの表示される最終日となります。

注: *ENDを指定した場合には、*AVAIL以外の終了時刻値はすべて無視されます。

***CURRENT**

現在日の指定された開始時刻から終了時刻（指定された場合）までにログに記録されたデータが表示されます。

日付 ログに記録されたデータが表示される終了日をジョブ日付形式で指定してください。

上

起点システム (ORIGIN)

指定されたシステムまたは論理区画から発生した問題ログ項目だけが表示されることを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRBLOGE)を指定した場合だけです。

要素1: ネットワークID

***ALL** 起点のシステムまたは論理区画のネットワークIDに関係なくすべての項目が表示されます。

***LOCAL**

このシステムまたは論理区画のネットワーク属性で定義されたものと同じローカル・ネットワークIDのシステムまたは論理区画から発生した項目だけが表示されます。

通信名 ネットワークIDを指定してください。このローカル・ネットワークIDのシステムまたは論理区画から発生した項目だけが表示されます。

要素2: 制御点名

***ALL** 起点のシステムまたは論理区画の制御点名に関係なくすべての項目が表示されます。

***LOCAL**

このシステムのネットワーク属性で定義されたものと同じローカル制御点名のシステムまたは論理区画から発生した項目だけが表示されます。

通信名 制御点名を指定してください。この制御点名のシステムまたは論理区画から発生した項目だけが表示されます。

上

PMR番号 (SRVID)

指定した問題管理レコード(PMR)番号を持つ問題ログ項目のみを表示するかどうかを指定します。この番号は、問題がIBMサービスに報告される時に割り当てられます。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRBLOGE)を指定した場合だけです。

***ALL** 割り当てられたPMR番号があっても、それに関係なくすべての項目が表示されます。

文字値 PMR番号を指定してください。指定したPMR番号が割り当てられている問題ログ項目のみが表示されます。

上

サービス・エージェントのみ (SRVAGTONLY)

すべての問題ログ項目が表示対象とみなされるか、それともサービス・エージェントによって処理されたものだけが表示対象とみなされるかを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*PRBLOGE)を指定した場合だけです。

***YES** サービス・エージェントによって処理された問題ログ項目だけが表示されます。

***NO** すべての問題ログ項目が表示されます。

上

サブタイプ (SUBTYPE)

しきい値テーブルの処理の外観を指定します。

注: TYPE(*THRESHOLD)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

***SYSREFCDE**

システム参照コードのみを処理します。

***TABLE**

しきい値テーブル全体を処理します。

上

装置 (DEVICE)

しきい値テーブル中のシステム参照コードに関連した装置を指定します。

注: SUBTYPE(*SYSREFCDE)を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。

文字値 システム参照コードに関連した4文字の装置タイプを指定してください。例えば、2420テープ装置の場合には、DEVICE(2420)を指定できます。

上

例

```
WRKSRVAGT TYPE(*SRVIN) COLSRVIN(*YES) SNDSRVINF(*YES)
```

このコマンドは、サービス・エージェントのサービス情報を即時に収集して送信します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

上

サービス・プログラムの処理 (WRKSRVPGM)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・プログラムの処理(WRKSRVPGM)コマンドによって、1つまたは複数のライブラリーからサービス・プログラムのリストを表示して処理することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- ユーザーに権限があるサービス・プログラムだけが画面に表示されます。
- サービス・プログラムで操作を行うためには、その操作で使用するコマンドに対して*USE権限と、操作を行いたいサービス・プログラムに対して適切な権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SRVPGM	サービス・プログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サービス・プログラム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

上

サービス・プログラム (SRVPGM)

リストに入りたいサービス・プログラムの検索処理を指定します。指定されたパラメーター値と対応する名前をもつサービス・プログラムで、ユーザーに権限があるすべてのサービス・プログラムが表示されます。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サービス・プログラム

***ALL** ライブラリー修飾子で識別されるライブラリーのすべてのサービス・プログラムが表示されます。

総称名 処理するサービス・プログラムの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。総称名が指定された場合には、その総称名で始まる名前のサービス・プログラムで、それに対してユーザーが権限をもっているすべてのサービス・プログラムが表示されます。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはこれを完全なサービス・プログラム名と見なします。

名前 処理するサービス・プログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

***USRLIBL**

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

***ALL** QSYSも含めて、ジョブのライブラリー・リストのシステム部分のすべてのライブラリーが検索されます。

***ALLUSR**

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPLIB       #RPLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB  QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRIJS    QUSRVxRxMx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXMXユーザー・ライブラリーのVXRXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
WRKSRVPGM  SRVPGM(COMPLETE)
```

このコマンドは、ライブラリー・リストを使用して見つけられる、COMPLETEという名前のサービス・プログラムのリストが表示されている、「サービス・プログラム処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

サービス・プロバイダーの処理 (WRKSRVPVD)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・プロバイダーの処理(WRKSRVPVD)コマンドによって、保守サービスの問題を報告し、PTF発注書の送り先とするサービス・プロバイダーのリストが入っているメニューを処理することができます。このメニューから、サービス・プロバイダーの追加、変更、コピー、削除、または表示を行うことができます。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ユーザーがQSRVまたはQSRVBASとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限が必要です。

このコマンドにはパラメーターはありません。

上

パラメーター

なし

上

例

WRKSRVPVD

このコマンドは、「サービス・プロバイダーの処理」パネルを表示し、サービス提供元の現行リストが示されます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

サービス・テーブル項目の処理 (WRKSRVTBLE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サービス・テーブル項目の処理 (WRKSRVTBLE)コマンドを使用して、項目を追加、除去、表示、または印刷できるサービス・テーブル項目のリストを表示します。リストの印刷を選択することもできます。

サービス・テーブルを使用して、ポートに対するネットワーク・サービスのマッピングを管理し、サービスで使用されるプロトコルを記録して、各サービスごとに最大4つの別名を記録します。サービス・テーブルは、いくつかの標準的なポート割り当てで出荷されます。伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)によってサポートされる共通機能の値は、割り当て番号RFC (REQUEST FOR COMMENTS)文書、提案の正式仕様、およびTCP/IP部分に対する標準においてインターネット・コミュニティに対して使用可能です。

制約事項:

- このコマンドを使用して追加または除去するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SERVICE	サービス	文字値、*ALL	オプション、定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 2

上

サービス (SERVICE)

処理したいサービス名を指定します。

***ALL** すべてのサービス・テーブル項目が表示または印刷されます。

文字値 サービスの名前を指定してください。一致するすべての項目が表示または印刷されます。

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

***** 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

例

WRKSRVTBLE

このコマンドは、サービス・テーブル項目のすべてのリストが表示されている「サービス・テーブル項目の処理」パネルを表示します。サービス・テーブル項目はこのリストからの追加、除去、表示、または印刷を選択することができます。

上

エラー・メッセージ

なし

上

システム活動の処理 (WRKSYSACT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム活動の処理 (WRKSYSACT)コマンドを使用すると、システム内で現在実行中のジョブおよびタスクについて、対話式に作業することができます。ユーザーは、このデータをディスプレイ装置に表示できるだけでなく、データを将来の使用のためにデータベース・ファイルに保管するよう指示することもできます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
OUTPUT	出力	*, *FILE, *BOTH	オプション、定位置 1
INTERVAL	間隔の長さ	1-900, <u>5</u>	オプション
SEQ	順序	*CPU, *DBCPU, *IO, *STGALC, *STGDLC, *STGNET	オプション
INFTYPE	情報のタイプ	*ALL, *JOBS, *TASKS	オプション
NBRITV	間隔の数	整数, <u>60</u>	オプション
MBR	メンバー	名前, <u>QAITMON</u>	オプション
LIB	ライブラリー	名前, <u>QPFRDATA</u>	オプション

上

出力 (OUTPUT)

コマンドの出力がコマンドが入力されたディスプレイ装置に表示されるのか、物理データベース・ファイルに書き込まれるのか、あるいは両方なのかを指定します。

*
_ 出力はディスプレイ装置に表示されます。

*FILE 出力は、メンバー (MBR)パラメーターに指定されたメンバーおよびライブラリー (LIB)パラメーターに指定されたライブラリーを使用して、データベース・ファイルQAITMONに書き込まれます。

*BOTH

出力は、ディスプレイ装置に表示され、データベース・ファイルに書き込まれます。画面が最新表示されるたびに、QAITMONファイルに統計が書き込まれます。これには、システム活動の処理画面の初期表示画面に表示されるデータは含まれません。

上

間隔の長さ (INTERVAL)

自動最新表示モードでデータが最新表示されるか、またはデータベース・ファイルに書き込まれる間隔を、秒数で指定します。有効な値の範囲は1から900秒です。

5 データは5秒ごとに最新表示されます。

1から900

最新表示の間隔を表す秒数(1から900)を指定してください。

上

順序 (SEQ)

表示されるか、データベース・ファイルに書き込まれる、ジョブまたはタスクの順序を指定します。

***CPU** ジョブおよびタスクは、間隔の間に使用した合計処理時間の順に並べられます。最大量の処理時間を使用しているものが先頭に置かれます。

***DBCPU**

ジョブおよびタスクは、データベース処理の実行に使用した合計処理時間の順に並べられます。最大のデータベースCPUを使用しているものが先頭に置かれます。

***IO** ジョブおよびタスクは、間隔の間に実行された入出力操作の数の順に並べられます。入出力操作の数が最大のものが先頭に置かれます。

***STGALC**

タスクまたはスレッドは、割り振られた記憶域の量の順に並べられます。割り振られた記憶域は、このタスクまたはスレッドの実行のために割り当てられた記憶域の量（ページ数）です。最大量の記憶域が割り振られたタスクまたはスレッドが先頭に置かれます。

***STGDLI**

タスクまたはスレッドは、割り振り解除された記憶域の量の順に並べられます。割り振り解除された記憶域は、このタスクまたはスレッドの実行から解放された記憶域の量（ページ数）です。最大量の記憶域が割り振り解除されたタスクまたはスレッドが先頭に置かれます。

***STGNET**

タスクまたはスレッドは、正味記憶域の量の順に並べられます。正味記憶域は、割り振られた記憶域と割り振り解除された記憶域との差です。割り振られた記憶域と割り振り解除された記憶域との差が最大のタスクまたはスレッドが、先頭に置かれます。

上

情報のタイプ (INFTYPE)

表示されるかデータベース・ファイルに書き込まれる情報のタイプを指定します。

***ALL** ジョブとタスクの両方が、表示されるか、データベース・ファイルに書き込まれます。

***JOBS** ジョブのみが、表示されるか、データベース・ファイルに書き込まれます。

***TASKS**

タスクのみが、表示されるか、データベース・ファイルに書き込まれます。

上

間隔の数 (NBRITV)

データが収集され、データベース・ファイルに書き込まれる回数を指定します。このパラメーターが有効なのは、*FILEが出力 (OUTPUT)パラメーターに指定されている場合だけです。

60 データは、60回収集され、データベース・ファイルに書き込まれます。

回数 パフォーマンス・データを収集し、データベース・ファイルに書き込む回数を指定してください。

上

メンバー (MBR)

収集されたデータの出力が保管されるデータベース・ファイル・メンバーを指定します。メンバーが存在していない場合は、自動的に作成され、データベース・ファイルに追加されます。このパラメーターが有効なのは、出力 (OUTPUT)パラメーターに*FILEまたは*BOTHが指定されている場合のみです。

QAITMON

標準メンバー名QAITMONが使用されます。

名前 収集されたデータを保管するメンバーの名前を指定してください。

上

ライブラリー (LIB)

データベース・ファイルQAITMONが入っているライブラリーを指定します。ファイルQAITMONは、指定されたライブラリー内に存在していない場合は、自動的に作成されます。このパラメーターが有効なのは、出力 (OUTPUT)パラメーターに*FILEまたは*BOTHが指定されている場合のみです。

QPFRDATA

データベース・ファイルを見つけるために、弊社提供パフォーマンス・データ・ライブラリーQPFRDATAが使用されます。

名前 データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

上

例

例1:ジョブおよびタスクに対する作業

```
WRKSYSACT
```

このコマンドは、使用された処理時間の降順にジョブとタスクが表示されたシステム活動の処理パネルを表示します。

例2:ジョブのみに対する作業

```
WRKSYSACT OUTPUT(*BOTH) INFTYPE(*JOBS) MBR(JOBACT)
```

このコマンドは、ジョブのみが表示されたシステム活動の処理パネルを表示し、この情報を、省略時ライブラリーQPFRDATA内にあるデータベース・ファイルQAITMONのメンバーJOBACTに書き込みます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPFC702

システム活動の処理はユーザー&4によって活動中です。

上

システム状況処理 (WRKSYSSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム状況処理 (WRKSYSSTS)コマンドによって、システムの現在の状況に関する情報を処理することができます。システムに現在あるジョブの数、システム補助記憶域プール(ASP)の合計容量、現在使用中のシステムASPのパーセント、現在使用中の一時記憶域の量、使用されたマシン・アドレスのパーセント、および現在主記憶域が割り振られている各記憶域プールに関連した統計情報が表示されます。統計情報は、指定された時間間隔（経過時間として示される）内に収集されます。測定の間隔を拡張することによってデータを更新したり、あるいはこれを再始動して、前の表示から始まる間隔の統計を表示することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OUTPUT	出力	*、*_PRINT	オプション、定位置 1
RESET	状況統計リセット	*NO、*YES	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV、*USRPRF、*BASIC、*INTERMED、*ADVANCED	オプション

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

*
_ 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

状況統計リセット (RESET)

このジョブでこのコマンドが最初に入力されたものとして、システム状況統計フィールドをゼロにリセットするかどうかを指定します。

*NO システム状況統計はリセットされません。

*YES システム状況統計はリセットされます。これは、また、システム状況の表示 (DSPSYSSTS)コマンドおよびQWCRSSTS APIにおける状況統計もリセットします。

上

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***PRV** 前に使用した援助レベルが示されます。

***USRPRF**

ユーザー・プロファイルに定義された援助レベルが示されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

***INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが示されます。

***ADVANCED**

システム・ユーザー・インターフェース・エキスパート・モードが示されます。

上

例

WRKSYSSTS OUTPUT(*PRINT)

このコマンドは、システム状況情報を印刷します。この代わりにOUTPUT(*)を指定し、コマンドを対話式ジョブから入力した場合には、システムに関する情報を示すシステム状況処理パネルが表示されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF1009

統計の経過時間がリセットされた。

CPF1882

ページング・オプションの値が正しくない。

CPF980A

&2モジュールの&1ルーチンが例外を検出した。例外戻りコードは&3でした。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

上

システム値の処理 (WRKSYSVAL)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム値の処理 (WRKSYSVAL)コマンドによって、指定したシステム値を処理することができます。システム値は、システムの一部として提供されます。システム値は、オペレーティング・システムでの一定の操作を制御し、一定の状態の状況を通知するためにシステムによって使用されます。

一部のシステム値に対して行われた変更は、即時に有効となりますが、一部は新しいジョブが開始されるまで有効とならず、その他は次回の初期プログラム・ロード(IPL)まで有効となりません。システム値の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。

注: 各システム値のタイプおよび長さを示す図表については、システム値検索 (RTVSYVAL)コマンドの戻された値のCL変数 (RTNVAR)パラメーターを参照してください。

制約事項:

1. 特定のシステム値を変更するために必要な権限に関する情報については、システム値変更 (CHGSYSVAL)コマンドを参照してください。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノーツ
SYSVAL	システム値	総称名, 名前, *ALL, *ALC, *DATTIM, *EDT, *LIBL, *MSG, *SEC, *STG, *SYSCTL, QABNORMSW, QACGLVL, QACTJOB, QADLACTJ, QADLSPLA, QADLTOTJ, QALWJOBITP, QALWOBJRST, QALWUSRDMN, QASTLVL, QATNPGM, QAUDCTL, QAUDENDACN, QAUDFRCLVL, QAUDLVL, QAUDLVL2, QAUTOCFG, QAUTORMT, QAUTOSPRPT, QAUTOVRT, QBASACTLVL, QBASPOOL, QBOOKPATH, QCCSID, QCENTURY, QCFGMSGQ, QCHRID, QCHRIDCTL, QCMNARB, QCMNRCYLMT, QCNTYID, QCONSOLE, QCRTAUT, QCRTOBJAUD, QCTLBSBD, QCURSYM, QDATE, QDATETIME, QDATFMT, QDATSEP, QDAY, QDAYOFWEEK, QDBFSTCCOL, QDBRCVYWT, QDECFMT, QDEVNAMING, QDEVRCYACN, QDSCJOBITV, QDSPSGNINF, QDYNPTYADJ, QDYNPTYSCD, QENDJOBMT, QFRCCVNRST, QHOUR, QHSTLOGSIZ, QIGC, QIGCCDEFNT, QIGCFNTSIZ, QINACTITV, QINACTMSGQ, QIPLDATTIM, QIPLSTS, QIPLTYPE, QJOBMSGQFL, QJOBMSGQMX, QJOBMSGQSZ, QJOBMSGQTL, QJOBSPLA, QKBDBUF, QKBDTYPE, QLANGID, QLEAPADJ, QLIBLCKLVL, QLMTDEVSSN, QLMTSECOFR, QLOCALE, QLOGOUTPUT, QMAXACTLVL, QMAXJOB, QMAXSGNACN, QMAXSIGN, QMAXSPLF, QMCHPOOL, QMINUTE, QMLTTHDACN, QMODEL, QMONTH, QPASTHRSVR, QPFRADI, QPRBFTR, QPRBHLDTIV, QPRCFEAT, QPRCMLTTSK, QPRTDEV, QPRTKEYFMT, QPRTTXT, QPWDCHGBLK, QPWDEXPITV, QPWDEXPWRN, QPWDLMTAJC, QPWDLMTCHR, QPWDLMTREP, QPWDLVL, QPWDMAXLEN, QPWDMINLEN, QPWDPOSDIF, QPWDRQDDGT, QPWDRQDDIF, QPWDRULES, QPWDVLDPGM, QPWRDWNLMT, QPWRRSTIPL, QQRYDEGREE, QQRYTIMLMT, QRCLSPSTG, QRETSVRSEC, QRMTIPL, QRMTSIGN, QRMTSRVATR, QSAVACCPH, QSCANFS, QSCANFCTL, QSCPFCNS, QSECOND, QSECURITY, QSETJOBATR, QSFWERRLOG, QSHRMEMCTL, QSPCENV, QSPLFACN, QSRLNBR, QSRSEQ, QSRVDMP, QSSLCSL, QSSLCSLCTL, QSSLPCL, QSTGLOWACN, QSTGLOWLMT, QSTRPRTWTR, QSTRUPPGM, QSTMSG, QSVRAUTITV, QSYSLIBL, QTHDRSCADJ, QTHDRSCAFN, QTIMADJ, QTIME, QTIMSEP, QTIMZON, QTOTJOB, QTSEPOOL, QUPSPLYTIM, QUPSMGQ, QUSEADPAUT, QUSRLIBL, QUTCOFFSET, QVYOBJRST, QYEAR	オプション, 定位置 1
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション

上

システム値 (SYSVAL)

処理したいシステム値の名前を指定します。多くのシステム値は指定できますが、一部の値はこのコマンドでは変更できません。指定できる値の詳細については、i5/OS Information Center (<http://www.ibm.com/systems/i/infocenter/>)の「実行管理機能」トピック・コレクションを参照。

***ALL** すべてのシステム値。

***ALC** 割り振りシステム値。

***DATTIM**

日付および時刻システム値。

***EDT** 編集システム値。

***LIBL** ライブラリー・リスト・システム値。

***MSG** メッセージおよびロギング・システム値。

***SEC** 機密保護システム値。

***STG** 記憶域システム値。

***SYSCTL**

システム制御システム値。

総称名 処理するシステム値の総称名を指定します。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば、QAU*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前を持つすべての項目がWRKSYSVALパネルに表示されます。

名前 処理するシステム値の名前を指定します。

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

***** 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスパール出力で印刷されます。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

上

例

例1:日付および時刻システム値の表示

```
WRKSYSVAL  SYSVAL(*DATTIM)
```

このコマンドは、すべての日付および時刻システム値のリストを表示します。

例2:機密保護システム値の表示

```
WRKSYSVAL  SYSVAL(*SEC)
```

このコマンドは、すべての機密保護システム値のリストを表示します。

例3:制御サブシステム記述システム値の処理

```
WRKSYSVAL  SYSVAL(QCTLSBSD)
```

このコマンドによって、制御サブシステム記述システム値QCTLSBSDを処理することができます。

例4:システム値の印刷

```
WRKSYSVAL  OUTPUT(*PRINT)
```

このコマンドは、すべてのシステム値およびその現行値のリストを印刷します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1030

システム値&1を変更することはできない。

CPF1059

&1の値の長さが正しくない。

CPF1076

システム値&1には、指定された値を使用することができない。

CPF1078

システム値&1は変更されなかった。

CPF1079

&1にリストされた値が多すぎるかまたは少なすぎる。

CPF1203

キーボード識別コード&1が正しくない。

CPF1831

ユーザーにはシステム値&1の変更が認可されていない。

CPF1852

システム値&1は変更されなかった。

CPF1856

システム値&1のフィルター・タイプ&4は正しくない。

CPF1857

&1に指定された値はコード・フォントでない。

CPF1864

ユーザーにはシステム値&1の変更が認可されていない。

上

テープ・カートリッジの処理 (WRKTAPCTG)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・カートリッジ処理(WRKTAPCTG)コマンドによって、ユーザーはテープ・カートリッジのリストを処理することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
DEV	ライブラリー装置	名前	必須, 定位置 1
CTG	カートリッジID	単一値: *ALL その他の値 (最大 40 回の繰り返し): 文字値	オプション
CGY	カテゴリー	単一値: *SHARE400, *INSERT, *EJECT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: カテゴリー名	文字値, *ALL , *NOSHARE, *IPL, *NL, *CNV, *SYSGEN	
	要素 2: カテゴリー・システム	文字値, *CURRENT	

上

ライブラリー装置 (DEV)

使用するライブラリー装置を指定します。装置名は、装置媒体ライブラリー作成(CRTDEVMLB)コマンドを使用して前もってシステム上に作成しておかなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 ライブラリー装置の名前を指定してください。

上

カートリッジID (CTG)

処理するカートリッジIDを指定してください。

注: カートリッジIDは、ライブラリー装置に外部IDを読み取るバーコード・スキャナーがある場合には、外部IDを表すものでなければなりません。

単一値

***ALL** 指定された装置またはカテゴリー中のすべてのテープ・カートリッジが表示されます。

その他の値 (最大40個指定可能)

総称ID

カートリッジIDの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換

えられます。総称名は、総称接頭部で始まる名前を持つすべてのカートリッジIDを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムはそれを完全なカートリッジIDと見なします。

ID カートリッジIDを指定してください。

上

カテゴリ (CGY)

処理するテープ・カートリッジのカテゴリを指定します。

単一値

*SHARE400

*SHARE400カテゴリ中のカートリッジIDが表示されます。このカテゴリのカートリッジは、同じ装置に接続された他のシステムと共用することができます。

*INSERT

*INSERTカテゴリ中のすべてのカートリッジIDが表示されます。このカテゴリのカートリッジはライブラリー装置に入っていますが、そのIDはまだシステムに追加されていません。

*EJECT

*EJECTカテゴリ中のすべてのカートリッジIDが表示されます。このカテゴリのカートリッジはそのIDがシステムから除去されているので以後使用することができません。

要素1: カテゴリ名

***ALL** CTGパラメーターで指定されたカートリッジIDについてすべてのカテゴリが検索され、処理するためにすべてが表示されます。

*NOSHARE

*NOSHAREカテゴリ中のカートリッジIDが表示されます。このIDのカートリッジは他のシステムと共用することができません。

***IPL** *IPLカテゴリ中のすべてのカートリッジIDが表示されます。このIDのカートリッジは代替IPLに使用することができます。

***NL** *NLカテゴリ中のすべてのカートリッジIDが表示されます。このIDのカートリッジはラベルなしテープとして使用されます。

***CNV** *CNVカテゴリ中のカートリッジIDが表示されます。このカテゴリ中のカートリッジは、コンビニエンス端末で使用されるものです。

*SYSGEN

*SYSGENカテゴリのカートリッジIDが表示されます。ライブラリー装置が*SYSGENモードになっている場合には、カートリッジは*SYSGENカテゴリから移動できません。

カテゴリ名

ユーザー定義のカテゴリの名前を指定してください。このカテゴリ名は、前にテープ・カテゴリ作成(CRTTAPCGY)コマンドで作成されていなければなりません。

要素2: カテゴリ・システム

この要素は、カテゴリが属するシステムを識別します。システム名は、ネットワーク属性表示 (DSPNETA) コマンドの保留中システム名フィールドから取られます。保留中のシステム名がない場合には、現行システム名属性が使用されます。

*****注意*****
システム名を変更した場合には、ライブラリー装置中のすべてのテープ・カートリッジと関連したライブラリー装置内のカートリッジが無効になります。

***CURRENT**

現在コマンドを実行中のシステムに属するカテゴリ。

***ALL** このコマンドを実行中のシステムに使用可能なカテゴリを所有するシステムが使用されます。

文字値 このカテゴリが属するシステムの名前を指定してください。

上

例

例1: テープ・ライブラリーの単一のカートリッジの処理

```
WRKTAPCTG DEV(LIB01) CTG(VOL4) CGY(*ALL)
```

このコマンドは、VOL4について1つの項目だけを示す「テープ・カートリッジの処理」パネルを表示します。「テープ・カートリッジの処理」パネルでは、示されているテープ・カートリッジを処理するためのいくつかのオプションを使用することができます。

例2: *INSERTカテゴリのすべてのカートリッジの処理

```
WRKTAPCTG DEV(LIB01) CGY(*INSERT)
```

このコマンドは、*INSERTカテゴリのすべてのカートリッジのリストを示す「テープ・カートリッジの処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF6708

エラーのためにコマンドが終了した。

CPF6711

コマンドは使用できない。

CPF6718

装置&1を割り振ることができない。

CPF6745

装置&1は媒体ライブラリー装置でない。

CPF67A6

カテゴリが存在していない。

CPF67D2

カートリッジ・コマンドが失敗しました。

CPF67D4

カテゴリーが使用できない。

CPF67E4

ライブラリー装置機能が正常に行なわれなかった。

CPF67E6

ボリューム&2が正しくない。

CPF67EA

機能は正常に行なわれていない。

CPF67EC

ライブラリー装置記述&1が存在していません。

CPF67ED

ライブラリー装置&1が使用可能でない。

CPF67F5

重複したカートリッジまたは仮想ボリューム名が見つかりました。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

上

テーブルの処理 (WRKTBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テーブル処理(WRKTBL)コマンドによって、使用可能なテーブルのリストを表示することができます。

制約事項:

- 使用(*USE)権限があるライブラリーだけが検索されます。
- 何らかの権限をもっているテーブルだけが、画面に表示されます。
- テーブルに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する*USE権限、およびその操作の実行対象であるテーブルに対する適切な権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TBL	テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: テーブル	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL, *ALLUSR, *ALL	

上

テーブル (TBL)

表示するテーブルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: テーブル

***ALL** すべてのテーブルが表示されます。

総称名 表示するテーブルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定すると、総称名と同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのテーブルが表示されます。

名前 表示するテーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。これらのライブラリーに入っているオブジェクトのうち、指定されたオブジェクト名をもつすべてのオブジェクトが表示されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLxxxxx   QUSRDIRDB   QUSRVI
QGPL       QSRVAGT    QUSRISJS    QUSRVRxRxBx
QGPL38     QSYS2      QUSRINFSKR
QMGTC      QSYS2xxxxx QUSRNOTES
QMGTC2     QS36F      QUSROND
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSGS
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPOSSA
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRPYMSVR
QPFRDATA   QUSRDIRCF  QUSRDRARS
QRCL       QUSRDIRCL  QUSRSYS
```

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVRxRxBxの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVRxRxBxユーザー・ライブラリーのVxRxBxは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALL システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

例

```
WRKTBL TBL(LIB1/ABC*)
```

このコマンドは、ライブラリーLIB1内に存在している、名前が文字'ABC'で始まっているテーブルのリストが表示されている「テーブルの処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

上

POINT-TO-POINT TCP/IPの処理 (WRKTCPPPTP)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IMOD *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

POINT-TO-POINT TCP/IPの処理 (WRKTCPPPTP)コマンドによって、このシステムに定義されたPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルを表示し処理することができます。

OPRMODEおよびCFGPRFパラメーターを使用することによって、定義されたすべての構成プロファイルまたはプロファイルのサブセットを処理することができます。各プロファイルについて表示される情報には、名前、操作モード、データ・リンク層プロトコル・タイプ、およびセッション状況が含まれます。

このリストによって、ユーザーはPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルを追加、変更、コピー、表示、または除去することができます。また、POINT-TO-POINTセッション・ジョブを開始および終了することができます。

*PPP回線タイプ・プロファイルでは次のオプションを使用することができません。

- 変更
- コピー
- 除去
- 明細表示

*PPP回線タイプ・プロファイルでは次のオプションを使用することができます。

- 開始
- 終了
- 回線状況処理
- セッション・ジョブ処理

*PPPスリップまたはPOINT-TO-POINTプロファイルを構成するためには、System iナビゲーター・インターフェースを使用してください。

制約事項:

- POINT-TO-POINT構成プロファイルを追加、変更、または除去するためには、入出力システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。
- POINT-TO-POINTセッション・ジョブを開始または終了するためには、STRKTCPPPTPまたはENDTCPPPTPコマンドに対する使用(*USE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
CFGPRF	プロファイルの構成	文字値, *ALL	オプション、定位置 1
OPRMODE	操作モード	*ANY, *ANS, *DIAL	オプション、定位置 2

プロファイルの構成 (CFGPRF)

リストに表示する構成プロファイルを指定します。

***ALL** すべてのPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルを表示します。

総称名 POINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルの総称名を指定します。総称名は1つ以上の文字とその後のアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (例えば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前をもつすべてのプロファイルが表示されます。アスタリスクが含まれていない場合には、その名前は完全なPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイル名と見なされます。

名前 特定の構成プロファイルの名前を指定します。リストに表示されるのはこのプロファイルだけです。

操作モード (OPRMODE)

リストに表示されることになるPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルの操作モードを指定します。

***ANY** 操作モードに関係なく、CFGPRFパラメーターに指定された構成プロファイル名と一致するすべてのPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルがリストに表示されます。

***ANS** *ANSの操作モードのPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルだけがリストに表示されます。

***DIAL** *DIALの操作モードのPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルだけがリストに表示されます。

例

例1:全プロファイルの表示

```
WRKTCPTP
```

このコマンドは、このシステムで定義されたPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルがすべて含まれているリストが表示されている「POINT-TO-POINT TCP/IPの処理」パネルを表示します。

例2: *DIALプロファイルのみの表示

```
WRKTCPTP OPRMODE(*DIAL)
```

このコマンドは、操作モードが*DIALになっているこのシステムで定義されたPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルがすべて含まれているリストが表示されている「POINT-TO-POINT TCP/IPの処理」パネルを表示します。

例3:総称名の*ANSプロファイルのみの表示

```
WRKTCPTP CFGPRF(ANSRPF*) OPRMODE(*ANS)
```

このコマンドは、操作モードが*ANSになっているこのシステムで定義され、'ANSRPF'の6文字で始まっているPOINT-TO-POINT TCP/IP構成プロファイルがすべて含まれているリストが表示されている「POINT-TO-POINT TCP/IPの処理」パネルを表示します。

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP1A1F

&3/&2/&1が&6を使用中に、要求を処理することはできない。

TCP8205

必要なオブジェクト&2/&1タイプ*&3が見つからない。

TCP8206

オプション&8は実行されなかった。ジョブ&6/&5/&4内のスレッド&10が&1を使用中です。

TCP8211

POINT-TO-POINTプロファイル&1が見つかりません。

TCP8212

POINT-TO-POINTプロファイル&1はすでに存在している。

TCP8219

*AUTL &3は接続ダイアログ・スクリプトの使用Nと矛盾する。

TCP/IPネットワーク状況の処理 (WRKTCPSTS)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IPネットワーク状況処理(WRKTCPSTS)コマンドは、NETSTATとも呼ばれ、ローカル・システム上のTCP/IPネットワーク経路、インターフェース、TCP接続、およびUDPポートの状況についての情報を入手するために使用されます。TCP/IP接続を終了するか、あるいはTCP/IPインターフェースを開始または終了するためにNETSTATを使用することもできます。

IP OVER SNA (IPS)が使用可能な場合には、NETSTATはSNAインターフェース、経路、および接続を使用するIPについての情報を表示します。IP OVER SNA 接続を終了したり、IP OVER SNAインターフェースを開始または終了するために、NETSTATを使用することもできます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
OPTION	オプション	<u>*SELECT</u> , *IFC, *RTE, *CNN, *IFC6, *RTE6, *CNN6, *STATUS	オプションナル, 定位置 1

上

オプション (OPTION)

処理したいTCP/IP状況情報を指定します。

*SELECT

「TCP/IPネットワーク状況の処理」メニューを表示します。

***IFC** 「IPV4インターフェース状況の処理」リストを表示します。

***RTE** 「IPV4経路情報の表示」リストを表示します。

***CNN** 「IPV4接続状況の処理」リストを表示します。

***IFC6** 「IPv6インターフェース状況の処理」リストを表示します。

***RTE6**

「IPv6経路情報の処理」リストを表示します。

***CNN6**

「IPv6接続状況の処理」リストを表示します。

***STATUS**

「TCP/IPスタック状況情報の表示」を表示します。

上

例

例1: TCP/IPネットワーク状況処理メニューを表示

```
WRKTCPSTS  
-または-  
WRKTCPSTS  OPTION(*SELECT)
```

これらのコマンドのいずれかによって「TCP/IPネットワーク状況処理」メニューが表示されます。

例2: OPTIONパラメーターを使用

```
WRKTCPSTS  OPTION(*CNN)
```

このコマンドは、「IPV4接続状況処理」パネルを表示します。

例3: 定位置パラメーターを使用

```
WRKTCPSTS  *RTE6
```

OPTIONパラメーターは定位置パラメーターです。OPTIONキーワードは必要ありません。このコマンドがNETSTATを開始すると、「IPV6経路情報表示」パネルが表示されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

TCP2670

要求を完了することができない。TCP/IPサービスは使用できません。

TCP3844

インターフェース&3のデータは使用できない。

TCP3881

リストのデータは使用できない。

TCP3882

データは使用できない。

TCP9999

プログラム&1でシステムの内部エラーが起こった。

上

TIE処理 (WRKTIE)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

技術情報交換処理(WRKTIE)コマンドは、次のいずれかのTIE機能を選択できるメニューを表示します。

- TIEファイルの送信
- TIEファイルの受信
- TIEファイルの照会

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
SPTUSRID	ユーザー識別コード	名前	必須, 定位置 1
SPTPWD	パスワード	文字値	必須, 定位置 2
ACCOUNT	アカウント	文字値, *RTV	オプション

上

ユーザー識別コード (SPTUSRID)

リモート保守サポート・ネットワークへのサインオンに必要なユーザーIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

パスワード (SPTPWD)

リモート保守サポート・ネットワークへのサインオンに必要なパスワードを指定します。

これは必須パラメーターです。

上

アカウント (ACCOUNT)

リモート・サポート・ネットワークにサインオンするために必要なネットワーク・アカウント番号を指定します。アカウント番号を指定しない場合は、連絡先データベースからのアカウント番号が使用されます。

***RTV** 連絡データベースからの会計番号が使用されます。

会計番号

使用される会計番号を指定してください。

例

```
WRKTIE SPTUSRID(ACME) SPTPWD(11111) ACCOUNT(11420880)
```

このコマンドによって、IDがACME、パスワードが11111、および会計番号が11420880であるユーザーがTIEメイン・メニューを処理することができます。

エラー・メッセージ

なし

時間帯記述処理 (WRKTIMZON)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

時間帯記述処理 (WRKTIMZON)コマンドは、時間帯記述オブジェクトのリストを表示します。

制約事項:

- 時間帯記述をリストで表示するには、それに対する使用(*USE)権限が必要です。
- QSYSライブラリーに対する*USE権限が必要です。
- 時間帯記述の省略名とフルネームを指定するためにメッセージが使用される場合には、省略名とフルネームを参照できるように、メッセージ・ファイルに対する*USE権限、およびライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TIMZON	時間帯記述	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション, 定位置 1

上

時間帯記述 (TIMZON)

リストに含める時間帯記述を指定します。

***ALL** すべての時間帯記述が含まれます。

総称名 リストに含める時間帯記述の総称名を指定します。総称名は、1つ以上の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングとして指定されます。総称名を指定した場合には、その総称オブジェクト名と同じ接頭部を持つ名前のついたすべてのオブジェクトが選択されます。

名前 時間帯記述の名前を指定します。

上

例

WRKTIMZON TIMZON(Q*)

このコマンドは、名前が文字Qで始まるすべての時間帯記述を含む「時間帯記述の処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

上

トレースの処理 (WRKTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トレース処理(WRKTRC)コマンドを使用して、システムを巡る既存の通信トレース、ジョブ・トレース、ライセンス内部コード(LIC)トレース、およびPERFORMANCE EXPLORER (PEX)トレースのリストを示すパネルを表示することができます。既存のトレースを処理したり、新規トレースを開始することができます。このコマンドを実行すると、「トレース処理」パネルが表示されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはSystem iナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してI5/OSのサービス・トレース機能の使用を許可されている必要があります。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDを持つ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、トレース操作を実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
TRC	トレース	単一値: *ALL その他の値 (最大 4 回の繰り返し): *CMN, *JOB, *LIC, *PEX	必須, 定位置 1

上

トレース (TRC)

「トレース処理」パネルに表示するトレースのタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

***ALL** 「トレース処理」パネルには、すべての通信トレース、ジョブ・トレース、ライセンス内部コード(LIC)トレース、およびPERFORMANCE EXPLORER (PEX)トレースがリストされます。

その他の値

***CMN** すべての通信トレースが「トレース処理」パネルに表示されます。

***JOB** すべてのジョブ・トレース・セッションIDが「トレース処理」パネルに表示されます。これには、トレース開始(STRTRC)コマンドと追加のトレース (ADLTRC)パラメーターを指定したTCP/IPアプリケーション・トレース(TRCTCPAPP)コマンドによって開始されたトレース・セッションが含まれます。

***LIC** すべてのLICトレースが「トレース処理」パネルに表示されます。これには、内部トレース (TRCINT)コマンド、接続のトレース(TRCCNN)コマンド、追加のトレース (ADLTRC)パラメーター

を指定したTCP/IPアプリケーション・トレース(TRCTCPAPP)コマンド、システム保守ツール開始(STRSST)コマンド、またはDST開始(STRDST)コマンドによって開始されたトレースが含まれます。

***PEX** すべてのPEXトレースが「トレース処理」パネルに表示されます。

上

例

WRKTRC TRC(*LIC)

このコマンドは「トレース処理」パネルを表示しますが、このパネルには、内部トレース(TRCINT)コマンド、接続のトレース(TRCCNN)コマンド、**追加のトレース (ADLTRC)**パラメーターを指定したTCP/IPアプリケーション・トレース(TRCTCPAPP)コマンド、システム保守ツール開始(STRSST) コマンド、およびDST開始(STRDST)コマンドを出すことによって開始されたすべてのトレースが示されます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF98A2

&1コマンドまたはAPIは認可されていない。

上

ユーザー・ジョブの処理 (WRKUSRJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・ジョブの処理 (WRKUSRJOB)コマンドによって、選択したユーザー・ジョブのリストを処理することができます。

STATUS, ASTLVL,およびJOBTYPEパラメーターに指定する値によって、このコマンドを使用して次のタスクを実行することができます。

- サインオンしたユーザーの処理画面から、メッセージを送信するオプションを選択するか、あるいはシステムにサインオンしているユーザーをサインオフすることができます。また、メッセージを表示するオプションを選択するか、あるいはサインオンしたユーザーに関する詳細を表示することもできます。サインオンしたユーザーの処理画面を表示するためには、STATUS(*ACTIVE), ASTLVL(*BASIC),およびJOBTYPE(*INTERACT)を指定してください。
- ジョブの処理画面から、システム上のすべてのバッチ・ジョブの状況を表示することができます。表示されたジョブを保留、終了、または解放するオプションを選択することができます。また、印刷装置出力を処理するか、あるいはメッセージを表示するオプションを選択することもできます。ジョブの処理画面を表示するためには、STATUS パラメーターの値、ASTLVL(*BASIC)およびJOBTYPE(*BATCH)を指定してください。
- ユーザー・ジョブの処理画面から、システム上で実行中のユーザー・ジョブの状況およびジョブ待ち行列上または出力待ち行列上にいるユーザー・ジョブの状況を表示することができます。表示されたジョブを変更、保留、終了、処理、解放、または切り離すオプションを選択することができます。また、スプール・ファイルを処理してメッセージを表示するオプションを選択することもできます。ユーザー・ジョブの処理画面を表示するためには、次の1つを指定してください。
 - ASTLVL(*INTERMED)およびSTATUSおよびJOBTYPEパラメーターの任意の値
 - ASTLVL(*BASIC), JOBTYPE(*INTERACT),およびSTATUS(*ALL), STATUS(*JOBQ)またはSTATUS(*OUTQ)のいずれか
 - ASTLVL(*BASIC), JOBTYPE(*ALL),およびSTATUSパラメーターの任意の値

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USER	表示するジョブのユーザー	名前, *, *ALL	オプション、定位置 1
STATUS	ユーザー・ジョブの状況	*ALL, *ACTIVE, *JOBQ, *OUTQ	オプション、定位置 2
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション、定位置 3
JOBTYPE	ジョブ・タイプ	*ALL, *INTERACT, *BATCH	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV, *USRPRF, *BASIC, *INTERMED	オプション

上

表示するジョブのユーザー (USER)

このパラメーターによって、ジョブを開始したユーザー・プロファイルによって定義されたユーザー・ジョブを処理することができます。ユーザー・ジョブには、対話式ジョブ、投入バッチ・ジョブ、通信呼び出しバッチ・ジョブ、MRTバッチ・ジョブ、および自動始動ジョブが含まれます。ユーザー・ジョブには、システム・ジョブ、サブシステム・モニター・ジョブ、スプール読み取りプログラム、またはスプール書き出しプログラムは含まれません。

* 現行のユーザー・プロファイルのユーザー・ジョブが表示されます。

*ALL すべてのユーザー・プロファイルのユーザー・ジョブが表示されます。

ユーザー・プロファイル名

ユーザー・プロファイルの名前を指定してください。指定されたユーザー・プロファイルを持つユーザー・ジョブが表示されます。

上

ユーザー・ジョブの状況 (STATUS)

処理したいユーザー・ジョブの状況を指定します。

*ALL ジョブ待ち行列および出力待ち行列上にあるジョブ、および活動状態にあるジョブも含めて、すべての状況のユーザー・ジョブが表示されます。

*JOBQ

ジョブ待ち行列上のユーザー・ジョブだけが表示されます。

*ACTIVE

すべてのグループ・ジョブおよびシステム要求ジョブを含め、活動状態のユーザー・ジョブだけが表示されます。サインオンしたユーザーの処理画面を表示するためには、STATUS(*ACTIVE)を指定しなければなりません。

*OUTQ

実行を完了したが、まだ出力待ち行列上に出力を持っているユーザー・ジョブだけが表示されます。

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

* 出力は、対話式ジョブに表示されるか、あるいは非活動ジョブのジョブのスプール出力で印刷されます。

*PRINT

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

上

ジョブ・タイプ (JOBTYPE)

表示されたユーザー・ジョブのタイプを指定します。

***ALL** 対話式ジョブおよびバッチ・ジョブを含む、ユーザー・ジョブのすべてのタイプが表示されます。JOBTYPE(*ALL)を指定した場合には、ASTLVLパラメーターは無視されます。

***INTERACT**

対話式ユーザー・ジョブだけが表示されます。サインオンしたユーザーの処理画面を表示するためには、JOBTYPE(*INTERACT)を指定しなければなりません。ASTLVL(*BASIC)も指定した場合には、表示される対話式ジョブに、延期されたグループ・ジョブおよび印刷を待機中の印刷装置出力があるサインオフしたユーザーが含まれます。

***BATCH**

事前開始ジョブ、バッチ即時ジョブ、および36EE MRTジョブを含む、バッチ・ユーザー・ジョブだけが表示されます。ジョブの処理画面を表示するためには、JOBTYPE(*BATCH)を指定しなければなりません。

上

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***PRV** 前に使用されたユーザー・インターフェースが使用されます。

***USRPRF**

ユーザー・プロファイルの援助レベル (ASTLVL)パラメーターに指定されたインターフェースが使用されます。ユーザー・プロファイルに*ADVANCEDが指定されている場合には、*INTERMEDが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

***INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

上

例

例1: 選択したジョブのリストの処理

```
WRKUSRJOB  USER(PGMR12)
```

このコマンドによって、ユーザー・プロファイル名PGMR12により実行されているジョブのリストを処理することができます。

例2: すべてのジョブのリストの処理

```
WRKUSRJOB  USER(*ALL)  STATUS(*JOBQ)
```

このコマンドによって、ジョブ待ち行列上のすべてのジョブのリストを処理することができます。

例3: 対話式ジョブのリストの処理

```
WRKUSRJOB  USER(*ALL)  STATUS(*ACTIVE)  
           JOBTYPE(*INTERACT)  ASTLVL(*BASIC)
```

このコマンドによって、印刷装置出力および延期されている対話式グループ・ジョブによってサインオフされたユーザーを含む、サインオン・ユーザーのリストを処理することができます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF1E50

すべてのジョブが表示されているわけではない。

CPF1E51

ライブラリー&2のジョブ待ち行列&1が見つからない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF1003

サブシステム&1が活動状態でない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

CPF9851

&2のファイル&1のオーバーフロー値が小さすぎる。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

上

ユーザー・プロファイル処理 (WRKUSRPRF)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル処理(WRKUSRPRF)コマンドによって、表示したい1つまたは複数のユーザー・プロファイルの名前を指定することができます。

制約事項:

- 何らかの権限をもっているユーザー・プロファイルだけが表示されます。
- ユーザー・プロファイルに対して操作を実行するためには、その操作で使用されるコマンドに対する *USE権限、およびその操作の実行対象であるユーザー・プロファイルに対する適切な権限が必要です。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRPRF	ユーザー・プロファイル	修飾子リスト	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ユーザー・プロファイル	総称名, 名前, *ALL	
ASTLVL	援助レベル	*PRV, *BASIC, *INTERMED, *USRPRF	オプション

上

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

表示するユーザー・プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** ユーザーが所有しているか、あるいは表示する権限があるすべてのユーザー・プロファイルが表示されます。

総称名 表示するユーザー・プロファイルの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリングです。総称名を指定した場合には、総称検索見出しと同じ接頭部の付いた名前をもつすべてのユーザー・プロファイルが表示されます。

名前 表示するためのユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

上

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***PRV** 前に使用したユーザー・インターフェースが表示されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

*INTERMED

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

*USRPRF

ユーザー・プロファイルの作成時に**援助レベル (ASTLVL)**パラメーターに指定されたユーザー・インターフェース。

上

例

WRKUSRPRF USRPRF(RS*)

このコマンドは、名前が文字'RS'で始まっているユーザー・プロファイルのリストが表示されている「ユーザー・プロファイルの処理」パネルを表示します。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF1E60

要求は認可されていない。

CPF1E91

Nが指定されている場合には、オプション50に情報を入れることはできない。

上

ユーザー・テーブル処理 (WRKUSRTBL)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・テーブル処理(WRKUSRTBL)コマンドによって、金融機関ユーザー・テーブルを処理することができます。テーブルが作成されてしまうと、テーブルのユーザーIDの追加または削除ができます。複数の金融機関ユーザー・テーブルを定義することができます。各テーブルは固有の名前をもっている必要があります。

金融機関ユーザー・テーブルは、変更をすべて完了した後で投入されるすべての金融機関ジョブによってアクセスすることができます。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷されます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
USRTBL	ユーザー・テーブル	名前, *SELECT, *ALL	オプションル, 定位置 1
TEXT	テキスト'記述'	文字値, *BLANK	オプションル

上

ユーザー・テーブル (USRTBL)

金融機関サブシステム・ユーザー IDを含むテーブルの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 現在定義されているすべてのユーザー・テーブルを表示します。

***SELECT**

既存のユーザー・テーブル項目のリストが表示されます。この画面で、既存のユーザー・テーブルを作成、変更、削除、または表示することができます。

ユーザー・テーブル名

処理を行ないたいユーザー・テーブルの名前を指定してください。

上

テキスト'記述' (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

'記述' 50文字を超えないテキストを、アポストロフィで囲んで指定してください。

上

例

例1:すべての金融機関ユーザー・テーブルの処理

```
WRKUSRTBL USRTBL(*SELECT)
```

このコマンドにより、すべての金融機関ユーザー・テーブルの名前を処理できます。新規テーブルの作成、更新用の既存するテーブルの選択、あるいは「ユーザー・テーブルの処理」パネル上にあるテーブルの削除または表示を実行できます。

例2:1つのユーザー・テーブルの処理

```
WRKUSRTBL USRTBL(USRTBL1)
```

このコマンドにより、金融機関ユーザー・テーブルUSRTBL1を処理できます。「ユーザー・テーブルの処理」パネルから、金融機関ユーザー・テーブルを作成、変更、または表示できます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF8379

&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF8380

&2のファイル&1のオープン中にエラー。

CPF8381

&2のファイル&1のクローズ中にエラー。

上

監視の処理 (WRKWCH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

監視処理(WRKWCH)コマンドを使用して、システムを巡る活動状態の監視のリストを示すパネルを表示することができます。活動状態の監視は、監視パラメーターを指定した内部トレース(TRCINT),トレース開始(STRTRC),接続のトレース(TRCCNN), TCP/IPアプリケーション・トレース(TRCTCPAPP),および通信トレース開始(STRCMNTRC)コマンドを出して開始された監視,あるいは監視開始(STRWCH)コマンドを使用してかまたは監視開始(QSCSWCH) APIを使用して開始されたセッションとすることができます。

このコマンドを実行すると、「監視処理」パネルが表示されます。この画面から、活動状態の監視を終了したり、新規監視を開始することができます。また、終了中の監視も表示されます。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限を持っているか、あるいはSystem iナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してI5/OSのサービス・トレース機能およびサービス監視機能の使用を許可されている必要があります。また、QIBM_SERVICE_TRACEおよびQIBM_SERVICE_WATCHの機能IDを持つ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、トレース操作を実行できるユーザーのリストを変更するために使用することができます。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
WCH	監視	単一値: *ALL その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *SRVMON, *STRWCH, *TRCCMD	必須, 定位置 1

上

監視 (WCH)

「監視処理」パネルに表示する監視を指定します。

これは必須パラメーターです。

単一値

*ALL すべての活動状態の監視が「監視処理」パネルに表示されます。

その他の値

*SRVMON

オペレーティング・システムのサービス・モニター機能を使用して開始された活動状態の監視が表示されます。

*STRWCH

監視開始(STRWCH)コマンドまたは監視開始(QSCSWCH) APIを使用して開始された活動状態の監視が表示されます。

*TRCCMD

通信トレース開始(STRCMNTRC),トレース開始(STRTRC),内部トレース(TRCINT),接続のトレース(TRCCNN),およびTCP/IPアプリケーション・トレース(TRTCPAPP)コマンドを使用して開始された活動状態の監視が表示されます。

上

例

WRKWCH WCH(*TRCCMD)

このコマンドは「監視処理」パネルを表示しますが、このパネルには、内部トレース(TRCINT),接続のトレース(TRCCNN),通信トレース開始(STRCMNTRC), TCP/IPアプリケーション・トレース(TRCTCPAPP),およびトレース開始(STRTRC)コマンドに指定された監視パラメーターを介して開始されたすべての監視セッションが示されます。

上

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF39E6

ユーザーに必要権限がありません。

CPF98A2

&1コマンドまたはAPIは認可されていない。

上

書き出しプログラム処理 (WRKWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書き出しプログラム処理(WRKWTR)コマンドは、印刷装置および書き出しプログラムの状況を表示します。すべての書き出しプログラムの全般的な状況、すべての印刷装置の全般的な状況（それらの印刷装置の書き出しプログラムの情報とともに）、または特定の書き出しプログラムの詳細な状況を表示することができます。書き出しプログラムの状況は、コマンドの実行中に変化することがあります。

上

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	ノート
WTR	書き出しプログラム	総称名, 名前, *PRT, *ALL	オプション, 定位置 1
OUTQ	出力待ち行列	単一値: *ALL その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTPUT	出力	*, *PRINT	オプション
DSPFMT	画面様式	*INLENY, *S36FMT, *NORMAL	オプション
ASTLVL	援助レベル	*PRV, *USRPRF, *BASIC, *INTERMED	オプション

上

書き出しプログラム (WTR)

詳細な情報が表示されるスプール書き出しプログラムを指定するか、あるいはすべてのスプール書き出しプログラムまたはすべての印刷装置の主要な属性および状況を表示することを指定します。

***PRT** すべての印刷装置のリストは、その印刷装置に対して開始した書き出しプログラムの情報とともに表示されます。

***ALL** すべてのスプール書き出しプログラムの属性および現在の状況が表示されます。

名前 詳細な情報が表示されるスプール書き出しプログラムの名前を指定してください。

上

出力待ち行列 (OUTQ)

書き出しプログラムが開始された出力待ち行列を指定します。この出力待ち行列から開始された書き出しプログラムが表示されます。

このパラメーターが有効なのは、WTR(*ALL)が指定されている場合だけです。

単一値

***ALL** すべての出力待ち行列に対して開始された書き出しプログラムを処理します。

修飾子1: 出力待ち行列

名前 書き出しプログラムが開始された出力待ち行列の名前を指定してください。この出力待ち行列から開始された書き出しプログラムが表示されます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとして指定されているライブラリーがない場合、QGPLライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

上

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を要求元ワークステーションに表示するか、あるいは印刷装置のジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。画面様式 (DSPFMT) パラメーターによってシステム/36画面様式が選択された場合には、このパラメーターは無視されます。データは、端末装置に表示されます。

*
- 出力は表示されるか (対話式ジョブによって要求された場合)、あるいはジョブのスプール出力で印刷されます (バッチ・ジョブによって要求された場合)。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

注: S/36環境を使用している場合には、*PRINTを指定することはできません。コマンドを対話式に実行した場合には、出力は表示されますが、印刷されません。コマンドをバッチで実行した場合には、エラー・メッセージが送られ、出力は生成されません。

上

画面様式 (DSPFMT)

このコマンドを入力した結果の画面で使用する様式および用語を指定します。このパラメーターは、書き出しプログラムプロンプト(WTRパラメーター) に*PRTを指定した場合にだけ有効です。

***INLENV**

使用される様式および用語は、ユーザー・プロファイルに指定されたSPCENV (特殊環境) 値によって決定されます。SPCENV値が*S36の場合には、システム/36の用語が使用されます。この他のすべての値は、このシステムの用語が使用されることになります。

***S36FMT**

システム/36の用語を使用して情報を表示します。

***NORMAL**

情報の表示にこのシステムの用語が使用されます。

上

援助レベル (ASTLVL)

使用するユーザー・インターフェースを指定します。

***PRV** 前に使用したユーザー・インターフェースが表示されます。

***USRPRF**

ユーザー・プロファイルの援助レベル (ASTLVL)パラメーターに指定されたユーザー・インターフェースが使用されます。

***BASIC**

操作援助機能ユーザー・インターフェースが使用されます。

***INTERMED**

システム・ユーザー・インターフェースが使用されます。

上

例

例1:すべての印刷装置および書き出しプログラムの状況の処理

```
WRKWTR WTR(*ALL)
```

このコマンドは、「すべての印刷装置の処理」パネルを表示します。このパネルから、すべての印刷装置および書き出しプログラムの状況を処理することができます。

例2:1つの書き出しプログラムの状況の処理

```
WRKWTR WTR(DISKWRITE)
```

このコマンドによって、書き出しプログラムDISKWRITEに関する詳細な情報を処理することができます。

上

エラー・メッセージ

***ESCAPE** メッセージ

CPF0941

ジョブ&3/&2/&1はもはやシステムにない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

CPF1070

ジョブ&3/&2/&1が見つからない。

CPF1071

ジョブ&3/&2/&1に対する権限がない。

CPF3302

ファイル&2への印刷ファイル&1の一時変更は正しくない。

CPF3313

書き出しプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3336

ジョブ&5/&4/&3はすでにシステムにはない。

CPF3388

バッチにシステム / 3 6 画面様式を使用することはできない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF34B6

複数の印刷装置が選択された。

CPF34B7

印刷装置のリストから印刷装置を選択しなければならない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9871

処理中に、エラーが起こった。

上

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書 (i5/OS コマンド) には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Advanced Function Printing
AFP
AS/400
CICS
COBOL/400
C/400
DataPropagator
DB2
Distributed Relational Database Architecture
Lotus Domino
DRDA
IBM
Infoprint
InfoWindow
i5/OS
iSeries
Integrated Language Environment
Lotus
LPDA
OfficeVision
Print Services Facility
RPG/400
System i
System x
SystemView
System/36
TCS
Tivoli
WebSphere
z/OS

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、米国およびその他の国における Adobe Systems Incorporated の商標または登録商標です。

Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

コードに関するライセンス情報および特記事項

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

強行法規で除外を禁止されている場合を除き、IBM、そのプログラム開発者、および供給者は「プログラム」および「プログラム」に対する技術的サポートがある場合にはその技術的サポートについて、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、IBM および IBM のサプライヤーならびに IBM ビジネス・パートナーは、その予見の有無を問わず発生した以下のものについて賠償責任を負いません。

1. データの喪失、または損傷。
2. 直接損害、特別損害、付随的損害、間接損害、または経済上の結果的損害
3. 逸失した利益、ビジネス上の収益、あるいは節約すべかりし費用

国または地域によっては、法律の強行規定により、上記の責任の制限が適用されない場合があります。



Printed in Japan